

## 「学校は楽しいところじゃない、楽しくするところだ」

先日、今年度 2 回目の民生児童委員連絡会を開催させていただきました。前回から交代された委員の方もあり、児童や学校の



ことを知ってもらうために、1年間の児童の様子や学校評価アンケートについても提示し意見交流をさせていただきました。

その中で「学校は楽しいですか」という設問が話題に上りました。委員の方より、「自分が小学校当時、学校が楽しいと思っていたかはあまり覚えていないけれど、嫌だと思った記憶はない。学校には、勉強もだけれど一緒に遊ぶ友だちがいて、私にとって学校はとっても魅力的だった」や「子どもたちの一年間の活動を拝見すると、たくさん



の方に会ったり、話を聞いたりする経験をされている。自分から積極的に感想を伝える場面をあり、学校には、よい土壌ができていると思います」また別の委員の方からは「ネグレクトなどのニュースを目にするたびに、そうした子にとって学校は楽しい場所であってほしいと思う。今年クラブ活動などでも子どもた

ちと関わりを持つことができた。地域の大人として、子どもと出会うことが子どもたちを守ることになると考えている。たくさんの大人がみんなや学校を支えているんやでと伝えたい。」と話して頂きました。

どれも貴重なご意見や有難いご意見ばかりでした。

私は、「子どもたちは、学校を誰かに楽しくしてもらおう場所だと思っているのだろうか」と考えながら話を聞いていました。誰かに楽しくしてもらおうという意識でいたなら、いつか飽きてしまうか、誰かに不満を持つか、その子にとって学校はずっと魅力的な場所ではいられないように思います。子どもたちが学校をずっと楽しい場所と思うには、子どもたち自身が主体性を発揮できる場所である必要があります。また、自分たちの力で充実した活動を展開するなど、自分たちで楽しくできる学校であることが、「学校は楽しい」と感じるのではないかと考えています。

来年度は、中・高学年で取り組んだ自由進度学習など、子どもたちの主体性を大切にした授業づくりに取り組み、子どもたちが学校を楽しくすることを意識していきたいと考えています。また、令和6年度の学校統合に向けても子どもたちとともに考えながら進めていきます。